

# 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター

## 子どもたちのいのちと未来のために

子どもたちへのプログラムを中心に避難所、在宅被災者への支援活動を始めました。社会福祉協議会などと連携し、被災地の方々と「顔の見える関係」を作りながら、活動を続けています。

YMCAのノウハウを生かした野外活動、特にサッカーを軸にして地域とつながり、共に子どもたちの支援をしてきました。子どもたちが他者の違いを受け入れ、自分自身を肯定できるよう、これからも子どもたちに寄り添い続けます。

(盛岡YMCA総主事 濱塚有史)



2011年3月、ボランティアは、土砂やヘドロ除去、住居の片付けなど、被災者の心に寄り添いながらさまざまな作業を行った。2011年9月末までのボランティア数は延べ5,643人。



2011年3月18日、宮古教会との協働でYMCA宮古ボランティアセンターを開設。多くのボランティアが集まる。ボランティアへの研修なども丁寧に実施した。



2011年9月、「みやこ秋まつり」でたこ焼き、お好み焼きを出店。仮設住宅などでも炊き出しなどを随時行う。



野外活動「宮古アドベンチャークラブ」はハイキングや川遊びなど、プログラムが豊富で、中でも兜明神岳へのハイキングは人気。「被災地にクライマーを送る会」のメンバーが見守る中、子どもたちは大自然に心から親しむ。(写真は2011年10月)



大通り商店街での餅つきに、子どもたちは大喜び。餅つきは、どこで行っても笑顔でいっぱい。(写真は2012年1月)



2012年7月、ワイズメンズクラブ東日本区・西日本区、広島YMCAの支援で、宮古教会の隣に新しくボランティアセンター(プレハブ)を建てる。プレハブは2015年5月に解体し、現在、宮古市内の商店街にセンターを移し活動を続けている。



軽トラックが入れない家に洗濯機を運ぶ。「被災地にクライマーを送る会」のメンバーが献身的に担ってくれた。



仮設住宅での雪かきボランティア。(写真は2014年2月)



震災直後、信号が機能せず、すぐに横断歩道で見守りを始めた。ボランティアによって今も続けられている。(写真は2015年5月)



2015年7月、花トラックでお花を仮設住宅に届ける(花プロジェクト)。



ずっと続けている津軽石小学校での水泳教室。この日は横浜YMCAの協力を得て開催。(写真は2016年8月)

## 子どもたちの成長を願って

夏の日も、雪の日も子どもたちはサッカーで元気を取り戻す。子どもたちが次第に成長していくのが垣間見える。「親子サッカー大会」で、ドリブルをする男の子のボールを取ろうとした女の子の靴が脱げ、1メートル先まで飛んでいった。男の子はボールをそのままにして靴を取ってきて、女の子に履かせてあげた。それだけのことだったが「すごい」とみんな感動。希望は捨てない、子どもたちのために頑張ろうとみんなが思った。



サッカーを通してコミュニケーション力、協調性、責任感、想像力、決断力を養う。(写真は2016年11月)

## 地域の光となる人びと



ボランティア  
岡田雛乃さん

宮古高校2年の時、水泳教室(津軽石小)のボランティアを最初に、いろいろ参加しました。廃校でのキャンプもいい思い出です。YMCAは人との関わりを大事にしている、孤独を感じることはありません。この経験と被災した経験(小6)を生かし、将来、助産師となって宮古で命をつなぎます。



秋田県「思い出の瀧分校」でのサマーキャンプ

2011

3.11  
東日本大震災  
東北地方  
太平洋沖地震

3/25  
応急仮設住宅の  
建設開始

5/15  
応急住宅への  
入居開始

6/2  
こどものこころの  
ケアセンター設置

8/31  
指定避難所を  
全て閉鎖

2012

5月  
被災住宅の再建  
支援の補助事業  
開始

2013

8/26  
コミュニティー  
FM「みやこハ  
バーラジオ」開局

2014

1/15  
災害公営住宅  
の入居者募集  
を開始

4/6  
三陸鉄道北リアス  
線、宮古～久慈間  
全線運転再開

2015

12/11  
JR山田線脱線事故  
(盛岡～宮古間はいま  
だ全線開通に至らず)

2016

8月末  
非常に強い台風  
10号上陸

2017

## 自然はなんも変わんねえ

浄土ヶ浜観光船事業企業組合（浄土ヶ浜マリノハウス） 早野秀則さん

震災直後は、船も流され、本当に大変でした。そんな時、YMCAが若いボランティアの人たちを連れて来てくれたんですよ(※)。

まだ小さい船しかなくてね、それでも乗ってくれて、ちゃんと一人1,500円いただいて……助かりました、本当にうれしかった。それで降何度も来てくれて、皆さん熱心に話も聞いてくれるんです。



マリノハウス近くに咲くカタクリ。自然は強く優しい

YMCAの皆さんはね、町が被災してすぐに、交差点に立ち、泥をかいてくれて、避難所や仮設住宅にもわざわざ訪ねて来てくれた。餅つきをしたり、焼きそばを焼いたりして、被災した人たちはみんな喜んでましたよ。支援物資もありがたいんですが、同時に精神的な支えもほしいんです、生きてる人間ですからね。

うちは今もレストランで震災のビデオを流して、写真も何枚も置いて、夏休みなどの忙しい時以外は、来てくれたお客さんには説明もします。だって、忘れてほしいから。本当の怖さを、自分の命を守ることの大切さを知ってほしいから。もう、幼稚園より下の子は東日本大震災を知らないでしょ。知らない世代が増えていく中で、一瞬にして2万人近い人たちが亡くなったことを若い人や子どもたちにきちんと伝え続けていくことは、本当に大切なことだと思うんです。

宮古で生まれ育った私でも、屋根を飲み込むような津波を見た時、腰が抜けた状態になりました。だから海に出るのは怖かった、いや今でも怖い。6年たったから大丈夫、じゃない。そんな問題じゃない。今も毎朝、海を見たら津波に飲まれた妻のことを思い出す、亡くなった人たちのことを思うんですよ。

もちろん6年たって町がどんどん復興してくると、気持ちにも変化はあります。でもね、あの高い防潮堤

を見ると、海は近いのに「遠いなあ」って思います。道路も立派すぎるなあって思うんですよ。やっぱり宮古が好きだから、前の宮古がいいんです。作業をしている人には感謝しているけど、結局人が造った物は壊れますからね。自然はなんも変わんねえ、自然は強く優しいんです。

海もルールを守ればなんも怖くはない。だから、子どもたちには海の楽しさを教えてあげたい。最近、応援も兼ねて、時々ミュージシャンたちが来てライブをしています。震災を知って学んで、みんな盛り上がり考えて。いろんな人が集まって、音楽だけでなく何かをすれば活気も出る。とにかく震災を忘れないでほしい。いざという時、自分の身は自分で守る。それを若い人たちに伝えていこうと思います。

※盛岡YMCA宮古ボランティアセンターでは、ボランティアが早野さんたち被災者の方から当時の話を聞く機会を設けています。



店内には写真やビデオ。震災直後、ハウスの補修に使用した板にみんなが寄せ書き。今も保存している



早野さん（左から二人目）と、マリノハウスのスタッフの皆さん



さつぱ船に乗ると、ウミネコがすぐ周りに



### 盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの主な支援活動

各地のYMCAから派遣されたスタッフが長期にわたって宮古に在住、地域の皆さんと日常を過ごした。  
 2011年 池田勝一(大阪)・大塚英彦(横浜)  
 2012年 大谷昭雄(横浜)・木田泰之(大阪)  
 2013年 木田泰之・斉藤勉(仙台)  
 2014年 斉藤勉

- 宮古市の状況**  
 (盛岡YMCA宮古ボランティアセンター所在市)
- 死亡届出407人/死亡認定110人(うち94人が行方不明者)
  - 住宅全壊2,677棟、大規模半壊688棟、半壊棟640棟、一部破損444棟
  - 被害推計総額:約2,457億円  
 《『東日本大震災からの復興』平成26年12月31日より》
  - 避難所:最大時85カ所、8,889人が避難  
 《『広報みやこ平成23年6月1日号より』》



● 宮古ボランティアセンターが活動したところ  
 宮古ボランティアセンター所在地: 宮古市田の神1-2-32 (現在)

## 支援から何を学び、未来へ何を継承するか

- |   |  |
|---|--|
| <p><b>Learning 学び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボランティアたちの継続的な活動、ずっと寄り添っていくことの大切さ。10年は被災地に寄り添い続けるという姿勢。</li> <li>◆復興までのすべてに寄り添うことはできないが、限られた中でも何が出来るかを考えた。</li> <li>◆サッカー、野外活動など、YMCAの得意な分野で支援をした。YMCA事業としてプログラムを運営。</li> <li>◆登山家をはじめ、専門家と連携した。</li> <li>◆教会を活動の拠点にし、教会との連携でYMCAがない地域での活動を可能にした。</li> <li>◆阪神淡路大震災を経験したスタッフの派遣により、次を予想しながら腰を据えた活動ができた。</li> </ul> | <p><b>Inheritance 継承</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●避難所から仮設、生活再建へと継続的な関わりを前提とする。</li> <li>●他の専門職・専門家と協働し、YMCAの得意分野を生かす。</li> <li>●コミュニケーションスキルを大切にして、地域に笑顔を運ぶ。</li> <li>●教会・教会ネットワークとの協働で支援の幅を広げることができる。</li> <li>●被災地支援経験者の他被災地への派遣が、大きな力となる。</li> </ul> |
|---|--|

### Column YMCAの防災教育

#### いざというとき、自分の命を守る

災害が起こったら、どこへ逃げる? 安全な避難ルートは? ……いざというときに、瞬時に判断をして自分の命を守れますか? 横浜YMCAでは、子どもたちに向けた「防災ウォークラリー」を三浦ふれあいの村で定期的実施しています。グループに分かれて地図を持ち、村内の各所で出されるクイズにみんなで相談して時間内に答えを出し、必要なことを地図に書き込みながら進みます。時に笑顔があり、時に真剣な表情を見せながら、確実に大事なことを学んでいきます。万が一の場合に自分で対応できる術を知り、「自分の命は自分で守る」意識を持ってほしい。ウォークラリーでの経験をきっかけにして学校や地域でも防災について学び考え、一人ひとりが尊い命を守る力を身に付けてほしいと願います。

